

始良カルデラの起源

30,000 年ほど前、今の鹿児島となる地域で巨大な噴火があり、大量の火山性物質が空気中に吹き上げられました。これにより火山の壁が崩壊し、空になった火山内部に落ち込みました。こうして形成されたのが、直径 22km、深さ 200m の広大な始良カルデラです。そしてこの火山性クレーターに海水が入り込み、錦江湾——鹿児島湾の現地名——ができました。

たぎり

錦江湾の北東の角には、若尊と呼ばれる、もうひとつの小さなカルデラがあります。これは 29,000 年ほど前に起きた別の噴火によるものです。この海中カルデラの奥深くでは、海底火山から出るガスにより水が沸騰しているように見えます。この現象は海底にある火山の噴気活動により生じるもので、“*to boil*” を意味する日本語「たぎる」からとって、地元では「たぎり」と呼ばれています。

野生生物

始良カルデラの独特な地勢と、ここで発展した生態系には、多様な動物種が生息しています。甲殻類、軟体動物、さらに絶滅危惧種のクロツラヘラサギを含む様々な鳥類などが、重富海水浴場では見られます。湾では、イルカ目撃のチャンスをお見逃しなく。

重富海水浴場

湾最大の干潟でもある、600m に伸びる砂浜で経験できるのはウォータースポーツだけではありません。小さな海洋生物に恵まれており、アサリやハマグリ、カニなどの海の生き物が見つかる場所としても有名なスポットです。そして年中、桜島の抜群の見晴らしを味わえます。また、松林は夏でも心地よい日陰をつくってくれます。

若尊鼻

錦江湾に突き出たように見える沿岸遊歩道は、南九州の古代民族、熊襲の征伐を担った伝説の王子、ヤマトタケルに関連があることで有名です。ヤマトが旅に乗り出したと言われている地点には、小さな神社が建っています。

寺山

海拔 400m に位置する寺山展望所からは、地域の名所を望む素晴らしい景観が見られます。目の前の桜島のパノラマ景色に、北には霧島連山、下には錦江湾の海と、見逃せないスポットとなっています。

神造島

神造島は辺田小島、弁天島、沖小島と呼ばれる 3 つの小さな島の総称です。島は火山岩の一種である流紋岩が何千年もの間に侵食されてできており、興味深い地形がいたるところに見られます。

白銀坂

歴史国道に指定された石畳の古道は、始良市の脇元から鹿児島市の牟礼ヶ岡までの坂に伸びています。主要道を逸すると、桜島や錦江湾、さらに高さ 20m の布引の滝を一望できる展望台にたどり着きます。

神瀬（神の浅瀬）

白い灯台からは、神瀬——桜島と鹿児島市の間にある浅瀬——を面して、湾を見渡すことができます。干潮時は砂浜が広がり、ここを取り囲む水域にはサンゴ礁や藻場、そしてたくさんの魚が見られます。

高峠

桜島と錦江湾、そして周囲の名所を 360°見渡せるスポットなら、高峠に向かい高さ 722m の展望台を訪れましょう。沿岸からですと、垂水市の北東側に高峠が見えます。毎年春になると、峠の丘には野生のツツジが何千と咲き乱れ、一面鮮やかな色に染まります。